

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
音楽の世界 The musical world		1年・2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教養科目)	全フィールド
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
岡泉志のぶ	本館3階	月、水、木、金(授業時間、会議等を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
この授業の内容は、西洋音楽史を中心としてその時代に活躍した作曲家の作品やソリストの演奏をその時代の背景や人間関係、曲の分析を含めて総合的に音楽史について学んでいく。楽器としてのピアノの誕生やピアノと作品の関連性、リラックスできる音楽についても考察し、受講者自身が関心のあるミュージカルや映画音楽を選定し鑑賞することで、更なる音楽への関心を高め、豊かな感性と音楽的な教養を身につけられることを目的とする。				
授業の目標				
①西洋音楽の時代の流れや背景を考察し、クラシック音楽をより身近な音楽として聴くことができるようにする。 ②リラックスできる音楽を鑑賞し、音楽の力と脳に与える影響力との関連性を例証することができるようにする。 ③豊かな感性を身につけるために、鑑賞したい映画音楽やミュージカル作品を自ら選んで鑑賞することができるようにする。 ④鑑賞することで音楽の構成する3つの要素(リズム、メロディ、ハーモニー)を認識することができるようにする。				
授業の方法				
ディスカッションを形式で、作曲家と作品の解説を加えて音楽鑑賞を主として授業を進める。レポート提出は2回とし、授業態度と鑑賞の発表内容で評価する。				
学習の成果(学習成果)				
①バロックから現代音楽までの西洋音楽に対する関心が高まり、その時代背景や作品の特徴を述べることができる。 ②場所(職場や家庭など)、対象者(乳児や障害児、高齢者など)、目的に適して提供できる音楽を選定することができる。 ③鑑賞する楽しさや幅広い音楽への興味や関心が高まり、豊かな感性と音楽的な教養を身につけることができる。 ④総合的に音楽の楽しさや必要性を感じることができ、様々な曲の構成を分析することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス シラバスを参考に授業の進め方や成績評価方法について説明する			
第2回目	バロック音楽(宗教音楽・オペラ・室内声楽曲)			
第3回目	バロック音楽(バッハの作品とチェンバロについて)			
第4回目	古典派(作曲家:ハイドン、モーツァルト)①			
第5回目	古典派(作曲家:ベートーヴェン)②			
第6回目	世界の産業と音楽の発達について(ピアノの完成と作品について) 第1回レポート提出(ロマン派、現代音楽の作品)			

第7回目	リラックスと音楽 ① (音楽療法と精神音楽技法)		
第8回目	リラックスと音楽 ② (α波と音楽の関連性)		
第9回目	ロマン派(オペラと器楽)①		
第10回目	ロマン派(管弦楽)②		
第11回目	近代、現代音楽①(日本の音楽と西洋音楽)		
第12回目	近代、現代音楽②(各国の代表的な作曲家と作品)		
第13回目	自分の好きな音楽とジブリの作品について 第2回レポート提出(ロマン派、現代音楽の作品)		
第14回目	映画(音楽)鑑賞 関心のある音楽について発表①		
第15回目	ミュージカル鑑賞 関心のある音楽について発表②		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		20%	鑑賞態度を含め、音楽に関心を持ち、授業をきちんと受けているかを評価する。
レポート		60%	レポート提出は2回とし、その時代の背景と音楽の関連性を含めたレポート内容とする。
調査報告書			
小テスト			
試験			
発表内容(態度含む)		20%	音楽鑑賞で感じたことや背景との関連について、発表することができる。
その他			
教科書と参考図書			
テキスト、参考書:適宜、プリント資料の配布をする。			
履修上の留意点・ルール			
授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用と飲食は禁止とする。使用教室(MR I)は土足禁止である。			